

令和6年度 第1回 川崎市小学校教育課程研究会(報告書)

分科会名	体育	開催日	令和6年6月5日(水)
------	----	-----	-------------

会場	川崎市立 柿生小 学校		
助言者	川崎市立 東高津小 学校	渡部 伸一 校長先生	
授業者	川崎市立 柿生小 学校	中島 真知子 先生 小泉 義仁 先生	
司会者	川崎市立 柿生小 学校	壬生 直樹 先生	
世話人	川崎市立 西菅小 学校	吉田 啓 先生	
出席者数	108 名	(+柿生小の先生方)	

1 提案の概要

1年生 表現リズム遊び「表現遊び」～みんなでおどろうかきおばあき～

5年生 ボール運動ベースボール型「ティーボール」～打って守って全力で楽しもう！～

2 研究協議の概要

1年生「表現遊び」

- 曲を流し続けることで子供たちに学習の見通しをもたせているのがよかった。
- 身に付けて欲しい体の動きに気付かせるための言葉かけが、活動中に出ているのが子供たちにとってよい方向に進んだ。
- 30種類以上の動物から動きを考えるのは大変だったのではないかと提案者→子供たちと確認をしながら動物カードを増やしていった。その時に動きにくい動物を選ばないように配慮した。
- 裸足でやった意図はあったのか提案者→足の先まで動かす感覚を味わせたかった。
- 動けない子供への手立てはあったのか提案者→動けない子供には動いている子供と関わらせたりするなど、子供同士関わらせる言葉かけを意識した。

5年生「ティーボール」

- 子供たち同士、主体的に取り組む事ができていた。
- アウト判定も折り合いがつけられるように複雑にはせず、誰にとっても分かりやすいルールにしていた。
- 5・6年でベースボールを行うことで、段階的に指導ができるのがよいと感じた。
- 2～3塁にランナーを配置した意図はあったのか提案者→誰でも点が取れるチャンスがあることを知って、楽しんでほしいという願いからこのようなルールにした。
- アウトゾーンを一つにすると守備の判断する場面が少ないのではないかと提案者→打球を捕ったあとの送球の繋げ方や仲間をサポートするためのカバーリングなど、守備が判断するための場面は確保している。
- 単元中盤から後半に入り、子供たちにかける言葉かけが「広げる」「深める」になったと思われるが意識して言葉かけをしていたかと提案者→チームの作戦から個人のめあてをもって取り組めるように、学習カードに次時のための振り返りを書くことで本時で意識できるようした。また、個人のめあてを意識できるようにチーム内で把握できるようにしていた。
- ゲームを楽しむための技能の指導、作戦、ルールなど重点にしていたものはあるのか提案者→打ち方や守り方などゲームを楽しむために必要な技能は指導した。最終的には子供がやりやすいやり方を尊重した。

指導講評

渡部伸一 先生 1年生「表現遊び」について

- 子供が活発的に動いていたのがよい。教師と子供の関係性がよいのも要因の一つ。「表現」の領域は自己開放をしながら楽しむ運動であるため、学習の前半に体ほぐし運動を入れながら、心と体を開放させる必要がある。
- 体育館などの広いスペースでなかったことで、子供たちが集中できていた学習環境がよい。また、掲示物やホワイトボードなど、学習の見通しがもてる工夫がされていた。クラスの実態を把握し掲示物を調整する必要もある。
- 曲の使い方がよい。子供の実態にあっていたと感じる。リズムがある曲もあるが、教師が何をねらうか把握をしていれば選択肢としては問題ないと思う。
- 説明ではなく、教師が子供の動きに言葉かけをして価値付けしていたのがよかった。価値付けをするだけでなく、周りの子どもと関わらせながら動きを広げることによって、体の動かし方を学ぶことにもつながると思われる。
- 自分のイメージに没入させるためには、どれだけ子供たちと教師が関わりをもてるかが大切。そのために、「言葉かけ」「場の工夫」など単元の中でどう行っていくかを計画していく必要がある。

門口知弘 指導主事 5年生「ベースボールゲーム」

- 柿生小学校では、5・6年で単元計画をしているのがよかった。高学年で身に付けさせたい力を「5年生では～」「6年生では～」と段階的に指導していく必要があるため、学校全体で計画的に行う必要がある。
- ルールの設定についてベストはない。子供たちの実態に応じて考えることが大切。ルールや作戦についても同様に実態に応じて考えていきたい。しかし、「ベースボール型の楽しさ」は外してはいけない。運動の特性に45分たっぷり味わわせる学習の流れが必要である。
- めあてを意識し達成するための「時間」や「場」を設定することが大切。その中で、計画した評価基準を意識した「言葉かけ」をすることで、子どもたち全員が目標を達成することにつながる。

3 今後の課題

- 動けない子供がいらないような学習環境の設定 そのための教師の言葉かけや場の工夫
- 運動の特性に迫るための学習ルールや評価基準の設定
- 低中高のつながりを意識した指導